

紙オムツ受入による下水道施設への影響調査

背景

- 介護や育児に伴う使用済み紙オムツの保管やゴミ出し作業は大きな負担となっており、少子高齢化に伴い今後の紙オムツ使用量の急増が見込まれる中、下水道の既存ストックを活用することで、介護・育児の負担軽減が可能となる。
- 国交省は、新下水道ビジョン加速戦略（平成29年8月）において、少子高齢社会への対応として、「下水道への紙オムツ受入可能性の検討」を位置付け、平成29年度に策定したロードマップに基づき検討を進めているところ。

課題

- ・紙オムツ分離装置に対するニーズはあるなかで、装置の開発が進められており、今後は、下水道への影響を地域単位で定量的に評価・検証することが必要である。
- ・また、装置が普及した場合の、各地域における廃棄物や福祉等の各分野への影響について把握することも必要である。

施策内容

1. 社会実験の実施

- ・ Aタイプ（固形分離タイプ）、Baタイプ（破碎・回収(一体型)タイプ）の装置について、全国で1～2箇所程度の地域を選定し、装置導入による下水道への影響を確認する。

2. 装置の導入検討

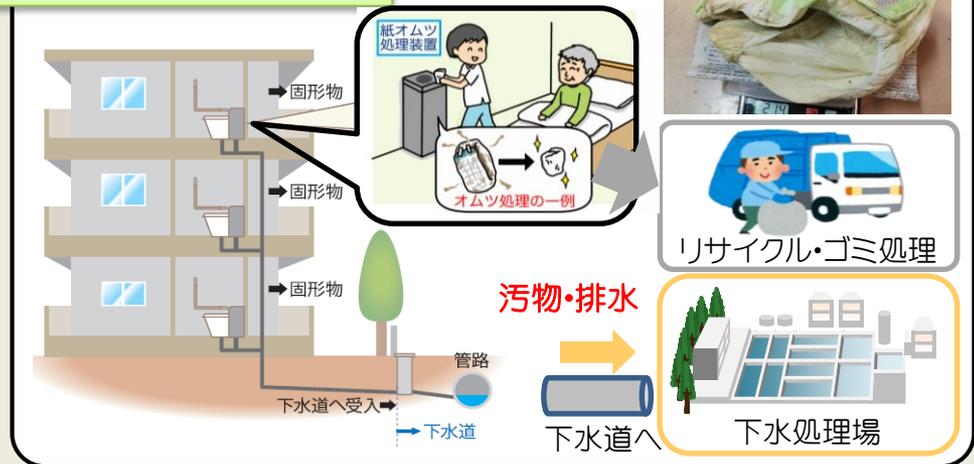
- ・ 装置が広く社会に導入される場合の社会的・経済的なメリット・デメリットを検証し、地方公共団体が地域作りを行う際の参考となるデータの整理・検討を行う。

⇒ 下水道への紙オムツ受入に向けた
ガイドラインのとりまとめ



固形物分離タイプ、及び
破碎・回収(一体型)タイプ

洗浄後紙オムツ



下水道への紙オムツ受入のイメージ

効果

既存の下水道ストック活用による介護・育児の負担軽減、利便性の向上及び地域の魅力アップ